

アーレントと トランプ以後のアメリカ

2025年9月7日（日）

14時35分～18時00分

神戸大学 六甲台第2キャンパス

人文学研究科・文学部

B331講義室

（参加費無料、ハイブリッド開催）



オンライン参加用
事前登録フォーム
（9月5日〆切）

登壇：会田弘継（ジャーナリスト/
思想史家）

三牧聖子（同志社大学）

大形 綾（関西大学）

寺井彩菜（大東文化大学）

司会：奥井剛（神戸大学）

ハンナ・アーレントは、ナチス・ドイツから亡命し、アメリカ市民となった。その経験に根ざした彼女の思考は、西欧政治思想史におけるアメリカ革命の重要性を強く照らし出した。しかし、トランプ以後のアメリカ社会と政治は、彼女の生きた20世紀冷戦期とは大きく相貌を異にする。この現実の変容は、われわれにアーレントのアメリカ論を今日いかに読み直すか、という問いを突きつける。本シンポジウムでは、アーレントのアメリカ論を研究の焦点としてきた若手研究者とともに、近年トランプ政権とその支持層を鋭く分析してきたゲストを迎え、現代アメリカの政治と「革命」のゆくえを多角的に議論する。